

1 研究の全体構想

本校の教育目標 **静と動のけじめをつける**～つなぐ力・つながる力をもとにして～

研究主題 **つなぐ力・つながる力の育成**  
～深い学びのある算数科学習を通して～

本校が特に育てたい資質・能力

「つなぐ力・つながる力」とは・・・

- 進んで学び，学んだことから自分なりの考えをもつ力
- より豊かな目的に向けて，友達と協働し，実行する力
- 自他の考えをもとに，よりよい考えを創り出す力

**研究仮説** 算数科の学習において，下の観点で授業改善を行えば，「深い学び」のある学習を展開することができ，「つなぐ力・つながる力」を育てることができるであろう。

- ①自ら問題や解決方法を見いだす「めあて」や「見通し」の工夫
- ②「数学的な見方・考え方」を働かせるための「問い」や「学習活動」の工夫
- ③学びの過程や変化，深まりがわかる「まとめ」や「振り返り」の工夫

- コミュニケーションレベル表 ○見る・聞くテスト ○学習タイム
- 家庭学習の手引き ○家庭学習がんばり週間 ○学力調査 ○算数アンケート

学校・学級経営

学習規律

信頼関係

特別支援教育

支持的風土の醸成

家庭や地域の理解・協力

## 2 主題設定の理由

### (1) 「つなぐ力・つながる力」とは

「つなぐ力・つながる力」とは、本校が育てたい、次の3つの資質・能力を指す。

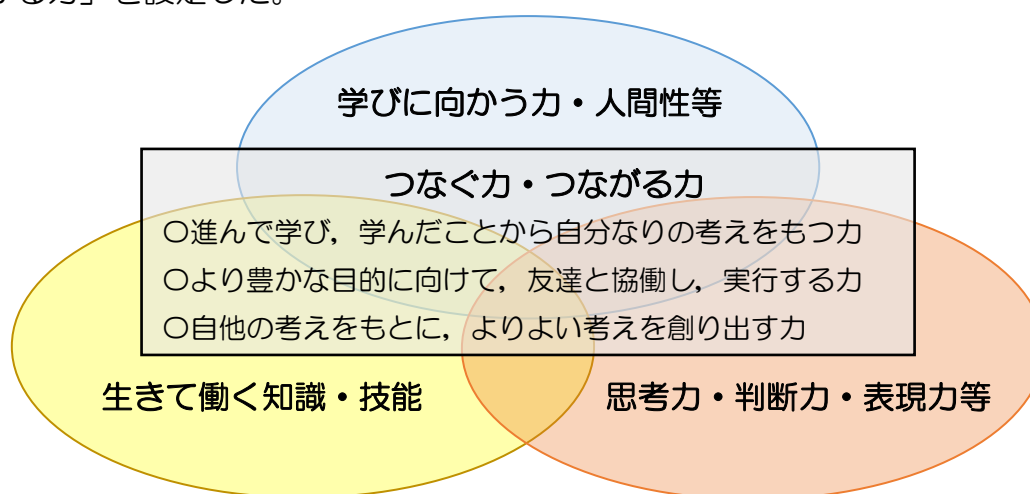
- 進んで学び、学んだことから自分なりの考えをもつ力
- より豊かな目的に向けて、友達と協働し、実行する力
- 自他の考えをもとに、よりよい考えを創り出す力

「進んで学び、学んだことから自分なりの考えをもつ力」とは、算数の姿でいえば、「問題を見いだす力」や「解決方法を見通す力」など、既習事項や課題と自分をつなぐ力である。

「より豊かな目的に向けて、友達と協働し、実行する力」とは、算数の姿でいえば、「思考し解決する力」や「考えを伝え合う力」など、友達と自分をつなぐ力である。

「自他の考えをもとに、よりよい考えを創り出す力」とは、算数の姿でいえば、「学びを振り返る力」や「新たな課題を設定する力」など未来の自分と現在の自分をつなぐ力である。

本校では、資質・能力の3つの柱である「学びに向かう力・人間性等」「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」を総合的に育むものとして、「つなぐ力・つながる力」を設定した。

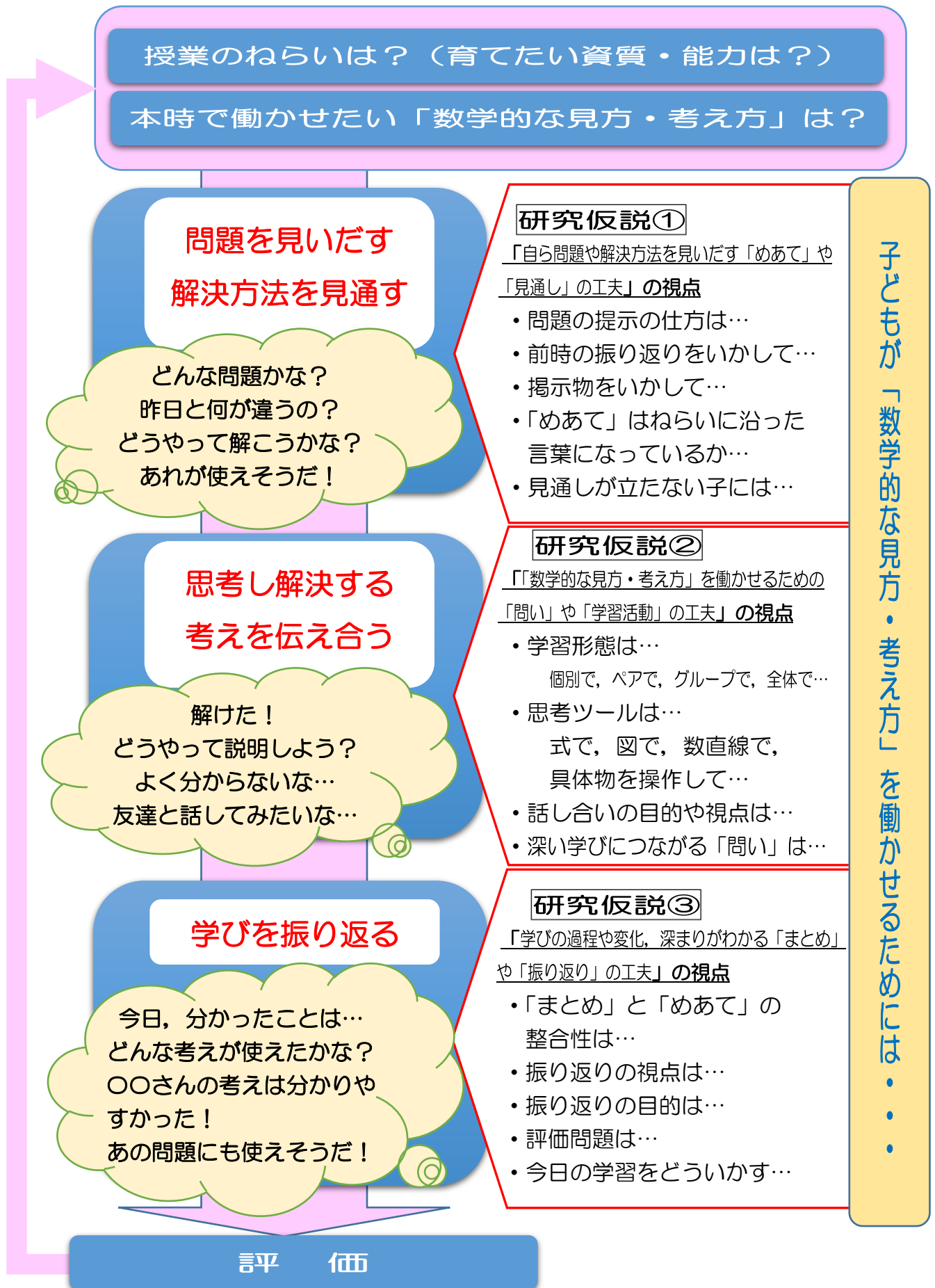


### (2) 「深い学びのある算数科学習」を構築するには

どうすれば学びが深まったかという点については、「数学的な見方・考え方」を働かせることをはじめとして、様々な考え方やアプローチがあると思われる。

そこで本校では、「めあて」や「見通し」の工夫や、「数学的な見方・考え方」を働かせる「問い」や「学習活動」の工夫、そして学びの変化や深まりがわかる「まとめ」や「振り返り」の工夫などの授業改善に取り組むことで、「深い学びのある算数科学習」が展開でき、本校の目指す資質・能力である「つなぐ力・つながる力」の育成につながるであろうとの研究仮説を立てた。

### 3 基本的な授業構想図



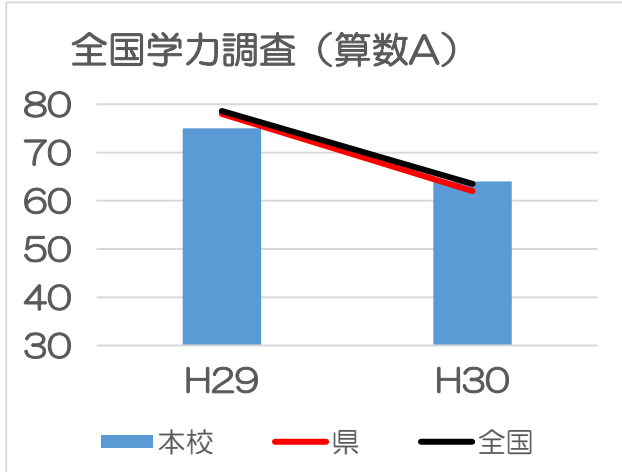
## 4 成果と課題

### ○各種調査結果

#### <全国学力・学習状況調査>

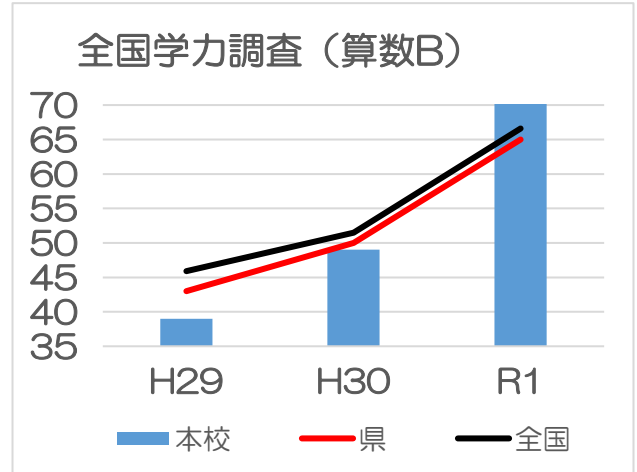
\*今年度の結果は、B問題のグラフに掲載する。

##### 【グラフ①】



年度	H29	H30
全国比	-3.6	+0.5

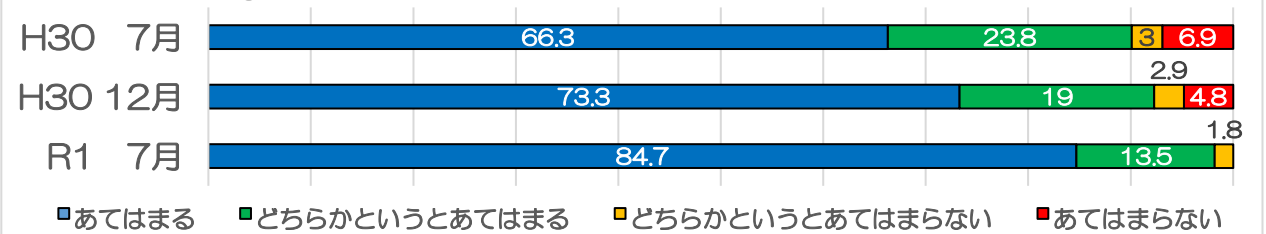
##### 【グラフ②】



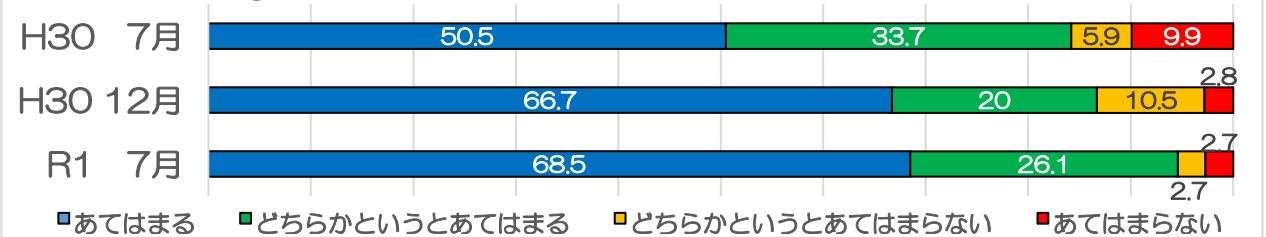
年度	H29	H30	R1
全国比	-6.9	-2.5	+3.9

#### <算数アンケート>

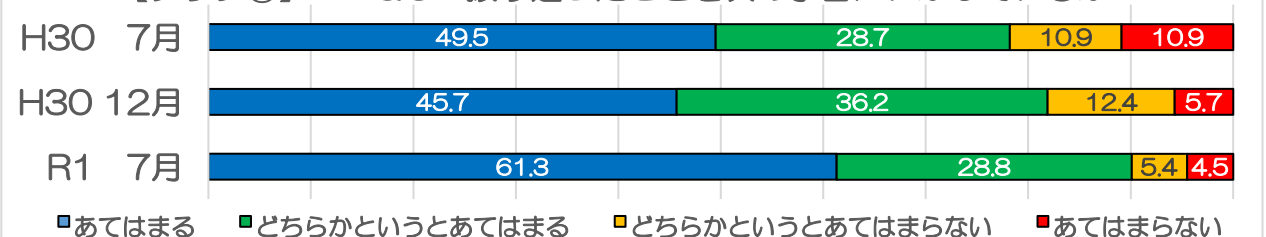
##### 【グラフ③】 Q1 生活の中で役に立つと思うか



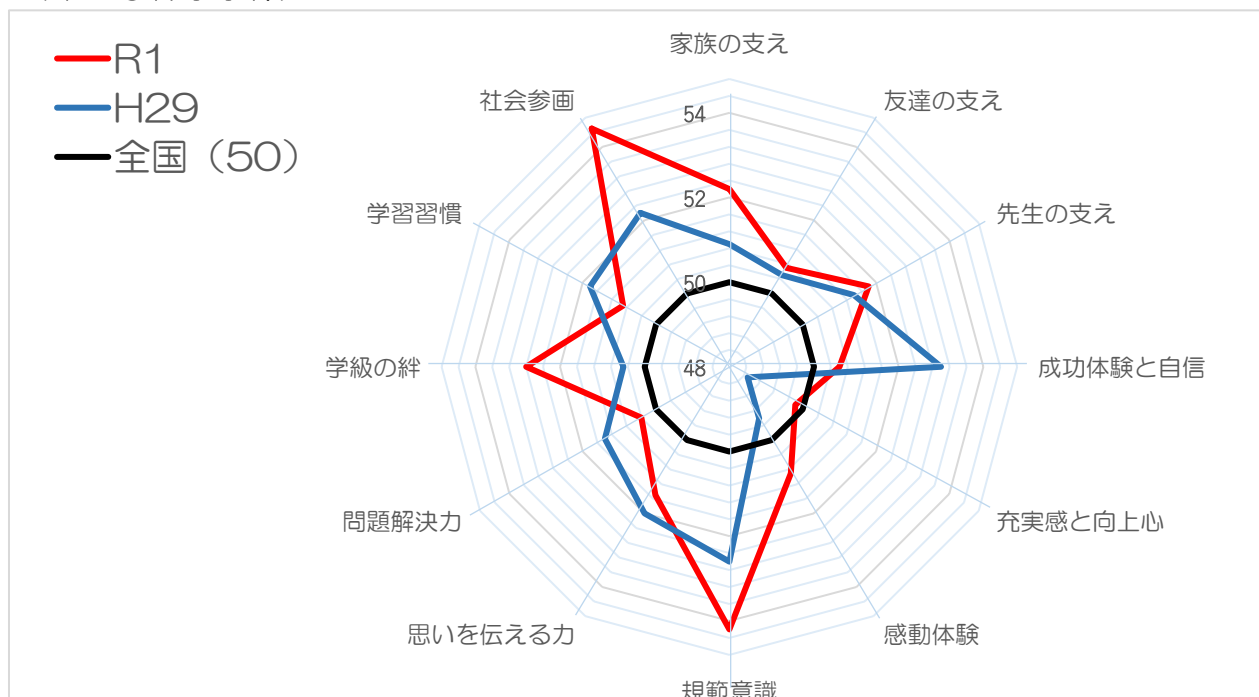
##### 【グラフ④】 Q2 友達の考えを聞いて分かるようになることがあるか



##### 【グラフ⑤】 Q3 振り返ったことを次の学習にいかしているか



## < i-Check >



### ○成果

- ①「基礎的な力」、「活用する力」ともに全国比で伸びが見られた。観点別に見ると、「数学的な考え方」で+3.2 ポイント（全国比）、「知識・理解」で+6.4 ポイント（全国比）であった。技能や知識・理解は思考の上に成り立つものという考えを教師が共通理解し、式や図、表、グラフを効果的に用いて思考する学習を意図的に行ってきた成果が表れてきた。また、記述式の正答率の向上（全国比+10ポイント）も見られた。授業において、根拠をもとに説明する学習活動を低学年のうちから意図的に仕組むことで苦手意識がなくなってきた。これらのことより、「**進んで学び、学んだことから自分なりの考えをもつ力**」（「**つなぐ力・つながる力**」より）の向上が見られたと捉えることができる。  
（【グラフ②】全国学力調査より）
- ②日常生活や将来の生活における学習の有用性を感じる児童の割合が増えた。問題場面を日常生活とつなげることで主体的に「めあて」や「見通し」をもたせたり（**研究仮説①**）、視点をもって学習を振り返らせたり（**研究仮説③**）した成果が少しずつ出てきた。また、友達との関わりや学習の振り返りを自分の学びにいかそうとする児童の割合も増えた。目的や実態に応じた「問い」「学習形態」の工夫（**研究仮説②**）や「振り返り」のいかし方を工夫（**研究仮説①③**）した成果である。「より豊かな目的に向けて、友達と協働し、実行する力」（「**つなぐ力・つながる力**」より）の一端が見え始めた。  
（【グラフ③④⑤】児童算数アンケートより）
- ③「充実感と向上心」、「学級の絆」の項目で伸びが見られた。これらは、本校が育成したい資質・能力の1つである「**自他の考えをもとに、よりよい考えを創り出す力**」（「**つなぐ力・つながる力**より）の向上には欠かせない項目である。（i-Checkより）

④前時までの学習をいかして、本時のめあてを考えたり、課題意識をもったりすることができるようになってきた。具体的には、掲示物や自分のノートを見返し、本時に使えるものはないかを進んで考える児童が増えてきた。「既習事項」「過去の自分」「日常生活」と「めあて」「見通し」をつなぐ工夫は有効な手立てであったと思われる。

(研究仮説①③との関わり：児童の様子より)

⑤友達の考えを聞いて、自分の考えと比べたり、理解を深めたりする姿が活動の様子や振り返りの記述から見られるようになってきた。「問い」によって表面的な思考から本質的な思考へと変容してきた成果だと考える。

(研究仮説②との関わり：児童の様子より)

⑥毎時間、「数学的な見方・考え方」を設定することで、本時のねらいに沿った学習活動を仕組むことができるようになった。つまり、「見方・考え方」の設定は、教材研究の1つの軸として有効であると考えられる。また、単元を見通して、「問い」の吟味や「振り返り」の視点の設定をすることで、より効果的な発問をすることができた。

(教師アンケートより)

## ○課題

①「問題解決力」「思いを伝える力」について自信をもてない児童の割合が高い。つまり、教師による価値づけが十分でないことが分かる。できていることを認め、成功体験を積み重ねさせるとともに、「振り返り」のいかし方についてさらなる工夫を考えていきたい。

(i-Checkより)

②読解力が不十分なために、問題把握ができなかったり、書く力が不足しているために、考えの説明や振り返りに抵抗を感じたりする児童がいるなど、個に応じた支援のあり方をさらに考えていく必要がある。

(児童の様子・教師アンケートより)

③研究仮説の①～③の全ての工夫を、全ての時間で丁寧に取り組むと「振り返り」までを完結させるための時間配分が難しくなる。児童に資質・能力を身につけさせるために必要なことを取捨選択したり、軽重をつけたりしながら、1単元や1年間を見通して計画的に行う重要性を改めて感じた。

(教師アンケートより)

④毎時間、全ての教科等で「見方・考え方」の設定していくのは大きな負担となる。教材研究の1つの軸として「見方・考え方」の設定の仕方についてさらに研修を深めていきたい。

(教師アンケートより)